

# 英語における色彩合成語の一考察

上野 貴史

## A Note on the Compound of Color Words in English

Takafumi UENO

### 1. はじめに

派生や複合などの過程を経て形成される合成語は、語彙や表現を豊かにする有効な手段として、各言語に頻繁に見られる方法である。特に、ゲルマン語派<sup>1)</sup>に属する英語は、ドイツ語などと並んで多くの合成語を造り出す。本稿は、このような英語の語形成の色彩語に焦点を当てて考察を行うものである。色彩語は、如何なる言語においても基本語彙の一つであるが、このような基本語彙による語形成を扱うことにより、英語の語形成全般を探る可能性を見い出せると考えている。

本稿では、色彩合成語の語構造、要素の意味、そして強勢といった点から主に考察を行い、これらの関係を明確にすることを目的としている。

### 2. 対象語彙

本稿では、語形成によって生成される色彩を表す語を対象とする。従って、blue, brown, green, red, white, yellow などの単一語は、分析の対象とはしない。語形成による色彩語の収集に対して、本稿では、*Kenkyusha's English-Japanese Dictionary for the General Reader* の見出し語を抽出することにする。ある語が色彩語であるか否かについては、主観的な判断に頼らざるを得

ない場合が考えられるが、色彩語の基準を「語形成によって生成された色彩を表す語」と定め、できる限り範囲を広げて収集することに努めた。しかしながら、この基準に合致しないと思われる以下の語については、今回の考察の対象から除外することにする。まず、色彩を表す語を合成語内に持ちながら、顔料・染料・絵の具・薬品などを意味する語については、色彩語として扱わなかった。顔料を指すものとしては、carbon black, chrome green, Indianred, iron black, titanium white, smoke black, satin white など、染料は、brazil-red, methyl orange, methylene blue, phenol-red, Saxon blue, spirit blue など、絵の具・薬品は、chrome red, methyl red, Spanish black, Spanish brown などが挙げられる。また、色彩の有無や量などを意味する bicolour, chromatic color, monochromic, multicolored, particolor, polychromatic, self-colored, tricolored, unicolor, whole-colored などについても調査の対象から除外する<sup>2)3)</sup>。

このようにして抽出された色彩合成語は、216語になる。

### 3. 色彩語の語形成

色彩合成語は、語形成上、主要語が名詞(N)

となる複合名詞と、形容詞(A)が主要語になる複合形容詞に大別される。ここで合成語の左側の要素を<E<sub>1</sub>>、右側の要素を<E<sub>2</sub>>とし、それぞれの要素に現れる語彙範疇によって色彩合成語を分類してみると(1)のようになる。

(1)

A) 複合名詞	157例
a) N+N	125例
b) N's+N	3例
c) A+N	29例
B) 複合形容詞	59例
a) N+A	52例
b) A+A	7例

英語の色彩合成語は、すべて複合形成であり、派生形成は見られない。ここで、<E<sub>2</sub>>の語彙範疇の判断について触れておく。一般的に英語の複合語は、右側主要部の規則<sup>9)</sup>に従うため、右側の要素の語彙範疇が複合語全体の語彙範疇を決定することになる。そこで、(1)のような分類が可能となる。しかしながら、色彩合成語の<E<sub>2</sub>>の位置にはblue, redなどの色彩語が置かれる。このような単一の色彩語の語彙範疇は、一般的に、形容詞と考えられている。従って、(1)の複合名詞の<E<sub>2</sub>>の要素の<N>は<A>と解釈されるべきであろう<sup>9)</sup>。そこでこれらの点を明瞭に記述するため、<E<sub>2</sub>>の位置に置かれる語彙範疇を<X>とし、(1)を(2)のように再分類する。

(2)

a) N+X	177例
b) A+X	36例
c) N's+X	3例

これで、<X>が<N>と判断されれば複合名詞、<A>と判断されれば複合形容詞になる<sup>9)</sup>。

次に、この各要素の語彙範疇による(2)の分類に従って、それぞれの要素の関係を詳しく考察していくことにする。

### 3. 1. <N+X>

<N+X>の構造は、色彩合成語全体の8割を越え、最も一般的な語構成であると言える。<N+X>には、合成語の中に主要語を持つA)内心複合語と、持たないB)外心複合語がある。語彙数では、圧倒的に内心複合語が多く、<N+X>の複合語の97%を占める。

#### A) 内心複合語

内心複合語には、<E<sub>1</sub>>と<E<sub>2</sub>>の要素間の意味関係からa) LIKE型と、b) USED型の2種類に分類できる。LIKE型は、<E<sub>2</sub> like E<sub>1</sub>>のようにパラフレーズでき、<E<sub>1</sub>>は<E<sub>2</sub>>の「類似性」を示している。このLIKE型の強勢には、平板強勢(´´)を取るものと前置強勢(``)を取るものがある。語彙数では平板強勢を持つ語が88例、前置強勢が59例となっている。一方、USED型は、<E<sub>2</sub> used by (in) E<sub>1</sub>>のようにパラフレーズすることができ、<E<sub>1</sub>>は<E<sub>2</sub>>の「象徴」を示している。USED型は、すべて平板強勢を取り、各要素の独立性が強く、統語論的な結合型が多く見られる。次にそれぞれの例を列挙してみる。

#### a) LIKE型 (147例)

##### • 平板強勢 (88例)

milk white	(← white like milk)
salmon pink	(← pink like salmon)
brick red	
charcoal gray	
coal-black	
fern green	
Nile blue	
nut-brown	
pea green	
steel gray	

##### • 前置強勢 (59例)

almond green	(← green like almond)
blood red	(← red like blood)
cherry red	
dove gray	

duck-egg blue  
leaf green  
tobacco brown  
zinc green

b) USED型(24例)

Vandyke brown  
(← brown used by Van Dyck)  
Napels yellow  
(← yellow used in Naples)

baby blue  
baby pink  
Cambridge blue  
Eton blue  
nattier blue  
navy blue  
Oxford blue  
Oxford gray  
rifle green

B) 外心複合語(6例)

外心複合語は、<a color which has E<sub>1</sub> E<sub>2</sub>>というようにパラフレーズできる。また、これらはすべて前置強勢の型を取る。

cherry blossom  
(← a color which has a cherry blossom)  
oxblood  
peach blow  
peach bloom  
tea rose  
ice-cream

3. 1. 2. <A+X>

<A+X>の複合語には、A) <E<sub>1</sub>>と<E<sub>2</sub>>が従属関係を示すものと、B) <E<sub>1</sub>>と<E<sub>2</sub>>に色彩語を並べる等位関係を示すものがある。いずれも平板強勢をとる。

A) 従属関係(28例)

burnt sienna  
Chinese red

electric blue  
French gray  
high-colored  
International Orange  
light blue  
pompeian red  
Prussian blue  
royal purple  
Venetian pink

B) 等位関係(8例)

blue slate  
blue-black  
cerulean blue  
golden yellow  
verdant green  
yellow-green

3. 1. 3. <N's+N>

<E<sub>1</sub>>に所有格を持つこの型は、色彩語では次の3例が見られるだけである。これらはいずれも平板強勢を取る。

king's blue  
king's yellow  
Thenard's blue

## 4. 各要素の意味構造

3. では、合成語の要素の語彙範疇と統語関係を考察したが、ここではそれぞれの要素の意味に注目して分析を行うことにする。色彩合成語は、基本的に語彙範疇を決定する主要部と意味の中心となる色彩語を<E<sub>2</sub>>の位置に取る。この結果、多くの色彩語が<E<sub>1</sub>+色彩語>という構造を取る。

4. 1. <E<sub>1</sub>>

ここでは、<E<sub>1</sub>>の位置に現れるものをその意味により分類する。まず<E<sub>1</sub>>を生物か非生物かによって大きく二つに分ける。生物には、人間に関するもの<sup>7)</sup>と人間以外の動物・植物に関する

るものの二つに下位区分する。非生物は、自然物・人工物・地名・状態・色彩の5つに下位区分する。これらの分類には、明確な基準があるわけではないが、便宜上、グループになりそうなものを結びつけた。

次に、この分類に出現する<E<sub>1</sub>>の要素をすべて列挙し、さらにそれぞれの語構造と強勢の特徴を記述していく。

A) 生物

a) 人間に関するもの

i) 人名(5例):

Alice, kelly, nattier, Thenard's,  
Vandyke

ii) 職業・地位(11例):

baby, cadet, hunter, king's, rifle<sup>9)</sup>,  
royal, tattletale

iii) 組織(6例):

Cambridge, Eton, navy, Oxford

ここに含められるものは、すべて<N+X>の複合名詞でUSED型の語構造を形成する。また、強勢は平板型になる。

b) 人間以外の動物・植物に関するもの

i) 動物・動物の一部(35例):

blood, canary, dove, duck-egg,  
fairy, fawn, flesh, ivory, milk,  
mouse, oister, ox, peacock, pearl,  
robin's-egg, salmon, seal, teal

ii) 植物・果実・花・植物の一部(44例):

almond, apple, cherry, cinnamon,  
coffee, corn, fern, gentian, grass,  
leaf, lemon, lily, lime, moss,  
mushroom, nut, olive, pea, peach,  
primrose, rose, sage, sap, straw,  
tea, walnut

ここに含められるものは、<N+X>の型になり、LIKE型の語構成となる。

B) 非生物

a) 自然物(48例):

cadmium, chrome, coal, cobalt,  
copper, earth, emerald, flame, ice,

iron, jade, jet, jungle, midnight,  
orpiment, rainbow, realgar, rust,  
sea, sky, silver, slate, snow,  
steel, sulphur, turquoise, water,  
zinc

b) 人工物(26例):

antique, ash, bottle, brick,  
charcoal, claret, cream, dust,  
indigo, lint, pitch, powder, snuff,  
tobacco, tow, wine

自然物と人工物に含められるものは、<N+X>の型になり、LIKE型の語構成となる。

c) 地名・国名(19例):

Chinese, French, leyden, Lincoln,  
Nile, Paris, pompeian, Prussian,  
saxe, Venetian

<N+X>型の場合、LIKE型とUSED型が混在する。<A+X>型の場合、従属関係を示し、すべて平板強勢になる。

d) 状態(18例):

burnt, dark, electric,  
International, invisible, light,  
natural, neutral, off, old, raw

ここに含まれるものは、<A+X>型で従属関係を示し、平板強勢をとる。

e) 色彩(10例):

blue, cerulean, golden, high,  
verdant, white, yellow

ここに含まれるものは、<A+X>型で等位関係を示し、平板強勢になる。

4. 2. <E<sub>2</sub>>

<E<sub>2</sub>>に出現する要素には、以下のようなものがある<sup>9)</sup>。

blue(41例), green(36例), color(ed)(32例),  
red(15例), yellow(15例), white(14例),  
brown(8例), black(7例), pink(6例),  
tint(ed)(4例), rose(3例), tone(3例),  
purple(2例), blond(e)(2例), orange(2例),  
gold(1例)

<E<sub>2</sub>>に出現する要素は、blue, green, red など具体的な色彩を表す色彩語と、color, tint(ed), tone など「色・色合い」そのものを表すものに意味上分類することが可能である。後者のグループは、統語論的に結合しており、その結果、前置強勢を取るものが多い。

最後に、巻末に付録として、今回抽出した色彩語のリストを主要語ごとに記載しておく。

表 1 色彩合成語の構造

語構成	語構成統語関係	強勢	<E <sub>2</sub> >意味構造
N+X	内 心	LIKE型 平板	地名・動植物・自然物・人工物
		前置	動植物・自然物・人工物
	USED型 平板	人間・地名	
	外 心	前置	
A+X	従 属 関 係	平板	地名・状態
	等 位 関 係	平板	色彩
N's+N		平板	人間

### 5. 結語にかえて

以上、色彩合成語を語構成・要素の意味・強勢といったような点から考察してきた。これらの関係はく表1のようにまとめることができる。

この結果、色彩合成語においては、<E<sub>1</sub>>に出現する要素の意味構造が語構成や強勢のパターンを大きく支配すると指摘できると考えられる。

### 註

- 1) Sugeta (1989) 参照。
- 2) これらの多くは、語基に接頭辞を付加して生成される派生語である。本稿で扱った色彩合成語はすべて複合語であり、派生形成しているこれらの語とは異質であることが分かる。
- 3) これらの他に、明らかにフランス語からの借用語と考えられる *couleur de rose* の例も調査の対象から除外した。
- 4) Williams (1981) 参照。
- 5) 転換が起こっていると考えることも可能である。
- 6) 実際に、複合名詞にハイフンを付加することによって複合形容詞が生成されるものが多い。  
sky blue (N) → sky-blue (A)  
jet black (N) → jet-black (A)
- 7) ここに分類したものの中には、非生物であるものもある。ここでは、人間に関するものだけは、広範囲にその所属や名称も生物として分類した。
- 8) 色彩合成語として使用される *rifle* は、*rifleman* の意味で使用されるのでここに加えた。
- 9) その他、<E<sub>2</sub>>に色彩語が出現しない外心複合語については、ここでは取り上げない。

### 参考文献

- Katamba, Francis. 1993. *Morphology*. The Macmillan Press.
- 竝木崇康. 1985. 『新英文法選書 第2巻 語形成』. 大修館書店.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech, & J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
- 柴田省三. 1975. 『英語学大系 第7巻 語彙論』. 大修館書店.
- Sugeta, Shigeaki. 1989. *Il Sintagma Nominale del Tipo «parola-chiave» in Italiano e nelle Lingue Romanze*. Società di Linguistica Italiana 27. 195-212.
- Williams, E. 1981. *On the notions 'lexically related' and 'head of a word'*. *Linguistic Inquiry* 12. 245-274.
- Young, Richard. 1991. *Variation in Interlanguage Morphology*. Peter Lang.

色彩合成語リスト

-black

“blue-black”  
 “blue-black”  
 “coal-black”  
 “jet black”  
 “jet-black”  
 “pitch-black”  
 “slate black”

-blond(e)

“ash blond(e)”  
 “ash-blond(e)”

-blue

“Alice blue”  
 “baby blue”  
 “cadet blue”  
 “Cambridge blue”  
 “cerulean blue”  
 “cobalt blue”  
 “dark blue”  
 “duck-egg blue”  
 “electric blue”  
 “Eton blue”  
 “French blue”  
 “giant blue”  
 “ice blue”  
 “ice blue”  
 “indigo blue”  
 “indigo-blue”  
 “king’s blue”  
 “leyden blue”  
 “light blue”  
 “midnight blue”  
 “nattier blue”  
 “navy blue”  
 “navy-blue”  
 “Nile blue”  
 “Oxford blue”  
 “Paris blue”  
 “peacock blue”  
 “pearl blue”  
 “powder blue”  
 “powder-blue”

“saxe blue”  
 “sky blue”  
 “sky-blue”  
 “slate blue”  
 “steel blue”  
 “teal blue”  
 “Thenard’s blue”  
 “turquoise blue”

-brown

“claret brown”  
 “fawn brown”  
 “nut-brown”  
 “olive brown”  
 “seal brown”  
 “tobacco brown”  
 “Vandyke brown”  
 “walnut brown”

-color(ed)

“canary-colored”  
 “cinamon color”  
 “cinnamon-colored”  
 “claret color”  
 “claret colored”  
 “coffee-colored”  
 “corn-colored”  
 “cream-colored”  
 “dove color”  
 “dove-colored”  
 “dust color”  
 “fawn-colored”  
 “flame-colored”  
 “flesh-colored”  
 “high-colored”  
 “lemon-colored”  
 “mouse color”  
 “mushroom color”  
 “natural-colored”  
 “peach color”  
 “peach-colored”  
 “rainbow-colored”  
 “rose color”  
 “rose-colored”

“straw color”  
 “straw-colored”  
 “tow-colored”  
 “wine color”  
 “wine-colored”

-gold

“old gold”

-green

“almond green”  
 “apple green”  
 “bottle green”  
 “cobalt green”  
 “emerald green”  
 “fairy green”  
 “fern green”  
 “forest green”  
 “grass green”  
 “grass-green”  
 “hunter green”  
 “invisible green”  
 “jade green”  
 “jungle green”  
 “kelly green”  
 “leaf green”  
 “lime green”  
 “Lincoln green”  
 “moss green”  
 “Nile green”  
 “Nile-green”  
 “olive green”  
 “Paris green”  
 “pea green”  
 “rifle green”  
 “rifle-green”  
 “sage green”  
 “sap green”  
 “sap green”  
 “sea green”  
 “sea-green”  
 “turquoise green”  
 “verdant green”  
 “yellow-green”

“Prussian blue”  
 “robin’s-egg blue”  
 “royal blue”

-orange

“cadmium orange”  
 “International Orange”

-pink

“baby pink”  
 “rose pink”  
 “rose-pink”  
 “salmon pink”  
 “salmon pink”  
 “Venetian pink”

-purple

“royal purple”  
 “Tyrian purple”

-rose

“old rose”  
 “old-rose”  
 “tea rose”

-tone

“copper tone”  
 “earth tone”

-red

“antique red”  
 “blood red”  
 “blood-red”  
 “brick red”  
 “cadmium red”  
 “cherry red”  
 “Chinese red”  
 “claret red”  
 “copper red”  
 “pompeian red”  
 “rose red”  
 “rose-red”  
 “Venetian red”  
 “wine red”

-tint(ed)

“flesh tint(s)”  
 “neutral tint”  
 “rainbow-tinted”  
 “rose-tinted”

“rust-colored”  
 “salmon-colored”  
 “snuff-colored”  
 “ivory white”  
 “lily-white”  
 “lint-white”  
 “milk white”  
 “milk-white”  
 “off-white”  
 “off-white”  
 “oyster white”  
 “Paris white”  
 “pearl white”  
 “pearl white”  
 “snow-white”  
 “water-white”

-yellow

“cadmium yellow”  
 “canary yellow”  
 “canary yellow”  
 “chrome yellow”  
 “golden yellow”  
 “ivory yellow”  
 “king’s yellow”  
 “lemon yellow”  
 “Naples yellow”  
 “orpiment yellow”  
 “primrose yellow”  
 “realgar yellow”  
 “straw yellow”  
 “sulphur yellow”  
 “zinc yellow”

その他

“blue slate”  
 “burnt sienna”  
 “cherry blossom”  
 “French navy”  
 “ice-cream”  
 “mouse-dun”  
 “olive drab”  
 “oxblood (red)”  
 “peach bloom”  
 “peach blow”  
 “raw sienna”  
 “white-livered”  
 “zinc chromate”  
 “zinc chrome”

“yellow-green”  
 “zinc green”

-white

“chinese white”